神木山報
shibokusanpou
一隅を照らそう
9月号
320号
毎月28日発行
E-mail:info@tougakuin.jp

放生会

住職　中島　有淳

コロナ禍でお寺に詣る人が殆ど無くなり、この時期に裏池の〝掻い掘り〟を実施する事になりました。

かれこれ十年以上も手つかずで環境悪化が進み、池の鯉の生息のためであります。指導してもらうのは近所に住むT氏。氏は自分でも永く鯉を飼い、本場の新潟まで出かけるくらい、とても造詣が深く、頼りになる方。じつは池の鯉の殆どは、氏の寄贈によるものです。

まず水を抜き、住んでいる鯉を捕まえて三つのプールに移します。その時、驚きました。一つの水槽に大量の泡が発生したのです。何事かと心配しましたが、T氏によると「自分たちの身に危険を感じ、種を保存しようとした行為による産卵」ということでした。本能によるこうした生命の仕組みに、大いに感動したものでした。

それから、土嚢に三百袋近く、底に積もったドロを掻きだすことが出来ました。しかし今年の永い梅雨や、明けてからの暑さには閉口しました。

その間に卵が孵化して稚魚となって成長し、なんとも可愛らしいものです。生命の不思議と同時にそうした〝命〟について考えさせられる機会をいただきました。

仏教はそうした〝命〟について思いやりや感謝を説きます。そのことに心を配る事が種々な供養をする行事や作法となって、今も残っています。八月に當山でも行った「施餓鬼会」なども、その代表的な行事といえましょう。

先日、このような考えから皆で〝放生会〟を実施いたしました。

仰いで、十方の三寶、釋迦本師、彌陀慈父、寶勝如来、観世音菩薩等に白す。惟だ願くば、慈悲證知護念し給え。今ま、水族有り。他の為に網し捕えられて、將に死門に入らんとす。比丘某甲菩薩の行を修し、慈愍の心を發し、放生の業を行じて、長壽の因を作し、其の身命を贖なうて、却って、放つて、逍遙たらしむ。仍て、大乘方等經典に順じて、三歸を授與し、及び、十號を稱し、十二因縁、皆な當に為に説くべし。

云々。

池は浄化され、多くの方のお世話によって甦りました。

いま鯉たちは、水を美味そうに口をパクパクしながら、のんびりと遊泳しています……。

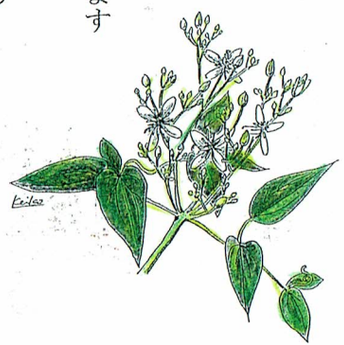
<元気に泳ぐ鯉>

<放生会は、もと殺生を戒める儀式。
転じて毎日の食事で命を頂く事への
感謝の行事。全国各地で行われている>

折りふしのはな

仙人草（せんにんそう）

あら！
あんな所に白いお花が咲いてる
何の花だろう
近寄ってみると　仙人草でした
白い小花がびっしりと咲いています
でも　これ
つつじに蔓がからんでいるから
つつじが痛まないかと　チョット心配
「共生」ってなかなかむずかしいね　（遊）



行事案内

○九月八日　午後二時
薬師如来大護摩供
○九月十二日　午後二時
智泉院法要日（於・日本橋茅場町）
○**九月十五日（火）年一回・午後二時**
ぜんそく平癒祈祷（非公開）
○九月十八日　午後二時
観音経読誦法要（非公開・神木観音堂）
○九月二十八日　午後二時
不動明王大護摩供
＊毎朝　六時の朝参り（公開）を再開しております
ご都合のよろしい時には　ご一緒にどうぞ

公開の法要は
どなたでもご参詣下さい
（マスクはご着用下さい）

月例「止観（坐禅）会」9/19（土）
各回定員10名・申込順・500円
①10:00～11:00　②13:00～14:00

あとがき

春に出版された2冊の本に、当山が掲載されました。
『ご朱印でめぐる　神奈川のお寺』（ダイヤモンド社）
『お寺と神社の巡礼手帖　首都圏版』（辰巳出版）

○今年の梅雨から夏にかけては記録的な水害と猛暑でした。しかもコロナ禍で全てがままならぬ事態に。お見舞い申し上げます。
○アメリカ大統領選挙の民主党候補者が正式にバイデン前副大統領(77)に。同じく副大統領候補には、女性のハリス上院議員(55)が。「分断か融和か」が問われる選挙となりそう。
○日本は安倍政権が歴代最長の二七九九日となり(24日付)、今後の行方が取り沙汰されはじめています。でもこのコロナ禍もあって「隔靴掻痒」の気分です。
○将棋の高校生棋士、藤井聡太棋聖が20日に、王位のタイトルを奪い二冠に。合わせて八段に昇段して、十八歳一ヶ月の史上最年少記録の快挙。すごい出来事です。
○年に一度の〝ぜんそく平癒祈祷〟も本年は非公開に。お札のお申込はお手紙又はFAXにて受付中です。
○厳しい残暑の予報です。九月は昔より正、五、九の月といってお詣りを特に大切にする月です。お宅でもしっかり勤められますよう心掛けたいものです。

合　掌